

中学校社会科における資料読解力の育成

－ 視点の分類表を用いた絵資料の読解 －

学籍番号 189974
氏名 谷田 旭
主指導教員 寺嶋浩介

1. 研究の背景と目的

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説では、より深い学びへとつなげるためには諸資料等を基にした多面的、多角的な考察が必要であるとされている。そのために、中学校社会科の教科書の各ページに一つは掲載されている資料を効果的に活用した授業を実践した。

本実践では、教科書に取り上げられている絵資料を取り扱った。絵資料とは、絵巻物や縄文時代、弥生時代の様子を描いた絵などのことである。これらの資料を使った授業は、先行研究において「子どもにとって、教科書等の本文（文章）での説明に伴う煩雑さを解消して、直接多元的・多重的な情報を提供するのが写真・図像の授業」（日本社会学会 2012）とされており、生徒が絵資料を通して多くの情報を読解することができることが期待される。

絵資料の読み取りを行うためには、教員が問いをしっかりと立て、生徒が絵資料を読み取る際の視点を明確化する必要がある。そこで、本実践では中学校社会科において効果的に絵資料を使用し、生徒の資料読解力を育成するために、視点の分類表を用いた授業実践を行った。

2. 視点の分類表

「視点の分類表」は、向山洋一「子どもの意見の分類表」（向山 2002）を参考にしながら、筆者が授業で使用する絵資料に合わせて作成した、生徒が授業において効果的に絵資料を読み取るためのツールである。「子どもの意見の分類表」は、AからIに向かうにつれて発展していく。それを踏まえ、「視点の分類表」では、時代等で比較できる授業であればEの視点を取り入れ、出来ないものに関してはAの視点を持てるように作成した。本来であればB以降の視点も取り入れるべきであるが、本実践では継続して授業を行う事が出来ないことを考慮し、資料読み取りの基礎となるAの視点を中心に作成した。

	目に付いたこと	くらべたこと		粉河寺縁起絵巻	平治物語絵巻
もの・形 ～がある ～が大きい 白い	①人 ②動物 ③のりもの ④山・川・自然 ⑤道具・機会 ⑥かんぼん ⑦その他	A	E	武士の数は何人？	武士の数は何人？
				武士の持ち物はな んだらう？	武士の持ち物はな んだらう？
分布から ～が多い、少ない		B	F	どんな身分の人が いる？	人（人数や様 子は…？）
地域的、空間的なこと どこ、どちら向き		C	G	武士以外の人は何 を持っている？	動物 自然
時代的、時間的なこと いつ、何時		D	H	武士は何をしている のだらう？	道具 家（形は…？）
その他		I		動物は何がいる？	（数は…？）

向山洋一「子どもの意見の分類表」

「視点の分類表」

3. 実践内容

本報告書では、中学校社会科の歴史的分野において、筆者が資料を活用した授業の実践を行い（第2章）、その実践の反省点を踏まえて視点の分類表を作成した。そして、作成した視点の分類表を活用して生徒が絵資料の比較を行う授業実践（第3章）、さらに視点の分類表が他の単元でも使用出来るのかを確かめるため、生徒が一つないし二つの絵資料から歴史的な事象を読み取る授業実践（第4章）を行った。

第2章では、社会科の授業において資料を取り入れ、生徒が資料読解力を身につけることを目標に実践を行った。授業を行ったのは歴史的分野「江戸時代」の単元である。この実践の結果、資料の読解を授業で取り入れる際に、生徒がどのような視点を持って資料を読み取るのかを定めた上で、授業を行う事が必要であるとわかった。また、絵資料の読解を授業に取り入れた際、生徒から多様な意見を得ることができた。反省点としては、資料読解を行う際に発問が曖昧になってしまった点が挙げられた。

第3章では、前章の反省と結果を活かして「視点の分類表」を作成し、授業実践を行った。授業の単元は歴史的分野「縄文時代」「弥生時代」である。実践では、生徒がこの二つの時代の人々の生活の様子を絵資料から読み取り、比較する授業実践を行った。そして、プレテスト、ポストテストを実施した結果、生徒の資料読解力の育成には視点の分類表を用いた授業は効果的であることがわかった。しかし、課題としては「資料読解の時間を十分にとれなかった」「分類表が他の単元で使用できるのか分からない」という2点が挙げられた。

第4章では、前章の反省の下、歴史的分野「武士の政権の成立」「院政」に関する授業実践を行った。この実践では、生徒が視点の分類表を用いて、一つの物事を一つないし二つの絵資料から読み取る活動を行った。例えば、生徒が武士の様子を二枚の絵巻物から読み取り、武士が担っていた役割を考察する活動等である。そして、プレテスト、ポストテストを行った結果から、分類表を用いた授業は、生徒の資料読解力の育成に効果的であるというデータを得ることができた。しかし、課題として「視点の分類表の発問の精査が必要となる」「授業の中で絵資料を使う目的を定める必要がある」ということが挙げられた。この課題は今後改善していきたい。

4. まとめ

本実践では、第三章、第四章で行った評価の結果、視点の分類表は生徒の資料読解力の育成に効果的であるという結果が得られた。視点の分類表を用いることで、絵資料のどの部分を見れば良いのかを明確化したことがこの結果につながったのではないかと考えられる。

しかし、この視点の分類表では、時代的、時間的なことや、地域的、空間的なものを読み取ることができないことが課題として挙げられる。今後、自身が教員として教壇に立つ際は、この課題を改善していきたい。

参考文献

- 文部科学省（2017） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編。
向山洋一著（2002） 教え方のプロ・向山洋一全集44 向山型社会・研究の方法。明治図書出版株式会社、東京
日本社会科教育学会編（2012） 新版 社会科教育事典。ぎょうせい、東京